



第7回 遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要

平成28年6月17日(金)午後3:30～
遠軽町役場 3階 大会議室

1. 開会

- ・外部アドバイザー(有)伊達計画所伊達社長紹介

2. 話題

(1) 報告

- ・ **前回協議会の結果について【参考資料1～2】**
(事務局説明)
 - ・中身についてはお目通しいただきたい。

(2) 議題

- ・ **道の駅基本設計図について【資料1～3】**
(事務局説明)
 - ・「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」というコンセプトのもと、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ機能に重きを置きながら、一番はスキー場とロッジ機能、それから充実したトイレ機能、続いてオホーツクの商品を網羅した物販・直売機能、最後に地域の特色を出した飲食機能を柱として、道の駅整備を進めていきたいと考えている。
 - ・高規格道路、IC、道の駅の全景図面をスクリーンに投影し、国道333号及び高規格道路からの接続と、整備の概要について説明。

① 施設形状

(アトリエアク説明)

- ・【資料1】施設の全景図面をスクリーンに投影し説明。
- ・大型車庫がリフト横にゲレンデと同レベルで設置する。
- ・スキーロッジを併設する道の駅ということが最も大きい特色であり、平場スペースを確保することが重要と考え、直線ではなく、直線を組み合わせるカーブさせた形の建物構成となっている。
- ・夏場は2階デッキスペースで休憩できたり、有効に使うことができる。また、スキーヤーは風除室からの出入りがメインとなるが、駐車場から建物左側の階段(屋根付き)の利用により、直接ゲレンデに出ることができる。
- ・外壁は主にガルバリウム鋼板を利用し、なるべくメンテナンスがかからないものとした。また、外からも中からも人の動きがよく見えるようなガラスサッシを使用し、直接、雨がかりにならない部分については、木を有効に使用していきたい。
- ・トップライトについては、建物にシンボル性を持たせる意味で瞰望岩をイメージしており、吹き抜けから1階に光を取り入れるものとなっている。

② ロッジ

(事務局説明)

- ・2階ロッジ及びゲレンデへは、1階正面の風除室から階段またはエレベーターを利用する方法と、施設左側トイレ横の階段を上る方法がある。
- ・レストハウスの集約、男女別ロッカー室、多目的に使用可能な会議室、ホール、観光バスの受入れにあたって乗務員休憩室、近年増加している手ぶらでのスキー客に対してレン



タルスペースの充実を図ることとし、食堂機能についても、価格の安いカレーやラーメン、丼物の提供は必須であり、冬期間、テナントが営業できる軽食用の簡易厨房として一通り最低限の設備を整備したいと考えている。

(委員)

- ・床の材質については、スキー靴でも滑りにくく、音も出にくいものにしたい。

(伊達)

- ・レンタルスペースは、板や用具、ウェアを置くとすれば小さいのではないか。ショップの配置も離れすぎているのではないか。

③ トイレ

(事務局説明)

- ・前回の検討協議会で最後に配付した図面では男性用の大が6、小が6、女性用が10、多目的が1。トイレの議論については、主に女性トイレの個数になるが、幹事会では、トイレを目玉として考え、オホーツク管内道の駅、入込客数ランキング、トイレのきれいさランキングにおける各道の駅からデータを収集し、トイレで集客を図るためには、前回図面1階のトイレ数では少ないと判断し、男性用の大が5、小が10、女性用が15（うち2器は和式）、多目的（オストメイト対応、オムツ替え台あり）が1という個数とした。
- ・【資料2】オホーツク管内の道の駅19か所の平均値と、遠軽IC道の駅の1階トイレのデータを比較すると、平均入込客数が32万4千人であり遠軽IC道の駅は丸瀬布と同数と捉え、96万人とした場合、約3倍の入込客数でありながら、男性についてはほぼ平均値で、女性については約1.5倍の個数となっている。入込客数ベストテンのデータにおいては、平均入込客数が98万3千人で遠軽IC道の駅が96万人ということでほぼ同数であり、トイレの個数も男性についてはほぼ同数、女性については若干多い15としており、丸瀬布が第5位にランクインしていることを考えると、決して多すぎる数ではない。トイレがきれいベストテンのデータにおいては、平均入込客数が58万人で遠軽IC道の駅が96万人ということで、倍とまではならないが、約40万人の差があり、トイレの個数は男性についても女性についても1.3倍から1.5倍の個数になっている。これらを総合的に考え、男性用の大が5、小が10、女性用が15、多目的が1という個数に設定した。台数の追加に伴い、広くて明るい使い勝手の良いトイレとするためにスペースを広げる。
- ・【資料3】トイレを目玉として、トイレの数を増やすことに加えて、プラスアルファの部分を充実させ、更に集客を図る仕掛けとして、幹事会ではトイレ内の個室の壁に、オホーツクの代表的な景色を全面的にプリントし、トイレからもオホーツクを発信していきたいと考えている。長野県飯山市斑尾（まだらお）高原スキー場トイレを参考に、遠軽の道の駅のトイレにもこのような個室をいくつか設け、本来、ただ用を足すだけのトイレに、「寄りたくなるトイレ」としての魅力をプラスし、遠軽からオホーツクを発信していこうという仕掛けとなっている。全面的なプリントに係る経費については精査できていないが、インパクトや、話題性があることから、集客が見込めるのではと考えている。
- ・トイレを目玉としてPRするにあたり、もう一つのポイントとして、女性目線でトイレのあり方を考え、女性トイレにのみ、化粧をする専用のパウダールーム、授乳室、更衣室を設置したいと考えている。まずパウダールームの設置により、女性が手洗い洗面台で化粧をする際、濡れていることが多いため衛生面が悪く使い勝手が良くないことと、化粧をしている方がいると、次に手を洗う方の支障になるという問題が解消される。また、授乳室があることにより、子育て世代の女性が安心して授乳できることから、乳幼児連れの方には非常に喜ばれるものとする。スペースは小さいものの、更衣室の設置により、衣服が



汚れた際や、私服から仕事着への着替え、小さい子どもの着替えの際にも利用することが可能となり、車内などの窮屈な空間での着替えの必要がなくなる。以上のとおり、パウダールーム、授乳室、更衣室を「女性と子どもに優しい」特化した一体の設備として整備し、他の道の駅と差別化を図ることで、メディアにも発信しやすく、リピーターやロコミによる集客が期待できると考えている。

- ・トイレの個数の増加とスペースの拡大により、きれいなトイレを維持するための清掃の手間や光熱水費について心配されるかと思うが、トイレで集客するのであれば、中途半端なことはせずに、夜間はシャッター等で使用できる個数を制限しないことと考えている。また、清掃については、個数の問題ではなく、「トイレを目玉に」という施設におけるトイレの位置づけをはっきりさせた中で、管理者が強い意志を持って維持管理をしていく。また、冬期間は個数を制限したとしても、凍結防止のため暖房を落とすことはできず、シャッターの導入による費用や維持管理も発生するため、制限せずに24時間フルで開放し、センサー式のLEDライトの導入による経費削減などにより、充実したものにしていきたい。
- ・トイレを含む施設内の清掃をする清掃員は、長時間にわたり清掃業務に従事することとなるが、フードコートや事務室のスペースで休憩することは、見た目や使い勝手も良くなく、荷物を置いたり、休憩ができる専用のスペースとして、飲食ゾーンの一角に専用の小部屋を確保した。

(座長)

- ・トイレの面積は増えているものの、全体の面積としては増えていない要因は何か。

(事務局)

- ・レストラン又はフードコートを1階に集約したことにより、面積が縮小されている。

(伊達)

- ・トイレの数について、男性の小便器が多いのではないかと。数が多ければそれだけメンテナンスがかかる。数が多くてもメンテナンスをやっていく、ということは問題ないが、フルで24時間開けるのであれば、通常1日4回の清掃が、5回に増えてくる。ピーク時を考えたとしても、人が入らなくなった時のメンテナンス費用のことも考えた方が良くはないか。
- ・全体のスペースは問題ないが、トイレ数に対して洗面台の数が少ないのではないかと。

④ 物販・直売

(事務局説明)

- ・夏場は屋外の屋根がある部分で直売をすることが可能。
- ・商品の選定や陳列方法については、町内にある物を優先し、町外にしかない物も惜しみなく入れていきたいと考えており、オホーツク管内の産品についても、管内の道の駅等を周って、置きたいものを見て、実際に納入することができるかの確認と、陳列方法についても、今後、調査及び視察をしたいと考えている。また、今後、必要に応じて、アドバイザー経由で北海道のアンテナショップの「どさんこプラザ」や道南の道の駅のバックアップを行っている「北海道食関連産業室」から、販売にかかるプロを招く計画もある。

(伊達)

- ・事務室が小さいのではないかと。従業員の数をどうするかを念頭に置いた方が良く。
- ・物販ブースには1㎡あたり10アイテムというのが売れる数字である。80㎡であれば800アイテムとなり、あまりに多いと大変になる。
- ・白い恋人等は道が入って中立してもらえようにした方が良く。



⑤ 飲食

(事務局説明)

- ・夏場は屋外のテラス部分で飲食をすることが可能。
- ・業態については、当初図面では、1階にレストラン、2階にフードコートとなっていたが、今回の図面では2階にスキー客向けの食堂機能として軽食用の簡易厨房を残しつつ、1階にレストラン又はフードコートのどちらか一方を設置したいと考えている。なお、レストランかフードコートかについては、6月の町広報及び町HPで将来的に出店する意欲を持つ方、現在は事業をやっていない個人の方についても周知し、参加者を募集した「産業・食部会」において、今後検討を重ねて、ルール作り等を議論する中で、8月末を目途に最終決定し、実施設計に反映していきたい。また、スキー客については、2階ロッジでの飲食がメインとなりながら、「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」とコンセプトにあるように「スキー場ファースト」の観点から言っても、1階での飲食はもちろん可能であり、利用客の相互の行き来は何ら問題なく、スキー靴での利用はもちろんあるものとし、対応していきたいと考えている。仮に、フードコートとなった場合、飲食ゾーンは物販・直売ゾーンからも見通しを良くし、座席については明るく眺めの良い窓側に配置する予定である。また、将来的に町外業者がテナントとして入ることも考えられるため、1ブースは指定管理者の直営ブースとし、町内業者の加工品や食材などを利用し、遠軽町のカラーは失わずに運営していけるとともに、それにより、多店舗との連絡調整がとりやすく、連携面でもうまくいくのではないかと考えている。

(委員)

- ・厨房スペースについては、どのくらいの大きさで、各設備は設置できるものなのか。1階は販売ブースで、2階は軽食コーナーとなっているが、作った料理を持ってこなければならぬのか。

(委員)

- ・2階軽食コーナーは、カレー・ラーメン・丼物等の現ロッジにあるようなものを安く提供するイメージである。

(座長)

- ・現ロッジと比べて、大きさは問題ないか。

(委員)

- ・現ロッジは広すぎるくらいなので、問題ない。

(委員)

- ・冷蔵庫や冷凍庫等も入るのか。

(事務局)

- ・それぞれ入れられる大きさ。1階図面では4ブース設けているが、今後、産業・食部会でブースの数についても検討していく。

(委員)

- ・店に入る人を先に募集するのか。

(事務局)

- ・それが前提ということではなく、これから産業・食部会で検討していく。

(委員)

- ・応募が多ければ、入れない人もいるということである。

(座長)

- ・2階は冬場がメインの設備。



(委員)

- ・夏場はスポーツ合宿等が来たときなどに、温める等4の簡単な調理をすることが可能。

(委員)

- ・千歳の道の駅は3つのレストランがあり、そういうイメージなのか。

(アドバイザー)

- ・2階は現ロッジにある食堂のようなイメージ。夏場は体験プログラムのやり方によって活用方法があり、最低限の厨房設備で、団体客にみそ汁を提供したりすることも可能である。

(委員)

- ・あくまでも、カレー、ラーメン、丼物の提供をメインとしている。

(委員)

- ・物産協会では、その場でトンカツを揚げてカツ丼やトンカツ定食を提供するような形をイメージしていた。1件だけだと休みが取れず、2～3件ないといけないと考えている。

(伊達)

- ・入る業者が決まっていない段階で、大きさを示すのは難しい。冷蔵庫も共同で使うのか、決めごとを作らないと難しい。鹿部の道の駅では3ブースあるが、広さはこの程度。入る業者によってはブースのレイアウトが変わってくる。今の状態で詰めた形を示すのは難しい。

(座長)

- ・あくまでこれは決定ではなく、プランニングを詰めていくための図面である。

(伊達)

- ・フードコートの販売ブースにも、ストッカーが必要である。
- ・群集心理を利用し、スッキリさせすぎず、密集させて人が人を呼ぶような形が良いのではないか。
- ・フードコートは、地元の物をベースに作ってもらう方が良いと思う。食で人を呼ぶには、地元の物をどう変えていくのかということ。シェフを呼ぶ方法もあるし、一番は地元の皆さんが食べているもの。よそ行きでない普段の食べ物が、実は一番食べたいもの。町のお母さん方が作っている味噌や漬物なんかが、食品衛生法をクリアしてくれば、一番の目玉となってくる。決して気取らない方が、良いのではないか。目に見えない名品が転がっているはず。そういうものを売って、流行って、人を雇う流れができるようにしていきたい。
- ・皆さんの熱意が感じられ、各組織が連携していて、道の駅づくりとして良い傾向だと思う。他の道の駅では分断されていることが多い。熱意が形に変わっていくための微調整をどんどんしていくことが大切。

・ 運営等に向けた今後の検討について 【資料4～5】

① 産業・食部会

(事務局説明)

- ・【資料4】6月の町の広報及び町のHPで参加者を募集し、6月10日(金)に募集を締め切った。
- ・今後は基本的には参加メンバーをベースにアドバイザー等と意見を交わしながらルール作り等の協議を進めていきたい。
- ・レストランかフードコートかについては、8月末を目途に最終決定し、必要な設備等について、実施設計に反映していきたいと考えている。



(座長)

- ・今後、事務局で手分けして、オホーツク管内の物産品の調査を行う。どこにでもある物ではなく、そこにしかない物をリサーチする。

② 体験部会

(事務局説明)

- ・体験部会についても、追って募集をかけたいと考えているが、産業・食部会と異なり、夏場のゲレンデを利用したアクティビティについては、特に専門的な分野となるため、今後、アドバイザーから意見をいただきながら、参集範囲を含めて参加要件を検討したい。
- ・部会はアクティビティに関する事業者が集まるのがシンプルとは思いますが、町内にはなかなかそういった方々がないので、外部から連れてくるとか、地元の方々が研修してノウハウを持ってきて参加していただくことが考えられる。
- ・アウトドアの有識者にガイドとして入ってもらうなど、そういったアプローチも可能であるという意見をアドバイザーからいただいているので、再度、検討していきたい。
- ・夏場のアクティビティについて、幹事会でいくつか検討しており、リフトを利用したマウンテンバイクのダウンヒル、クライミングウォールを制作してのボルダリング、ワイヤーロープを設置し、ターザンのように滑り降りるジップラインについて可能性を探っているが、ほかのアクティビティも含めて意見をいただきたい。

(座長)

- ・足湯なんかも、お湯のPRにもなり、情報も発信していけるのではないかな。

③ 情報発信部会

(事務局説明)

- ・8月末の実施設計に関連する部分はあまりありませんが、部会の発足時期や参集範囲を、今後、検討していく。
- ・道の駅における必須事項である、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの「情報提供機能」はもちろんのこと、観光協会の職員を置いた相談窓口の設置や、パンフレットを並べてオホーツクの玄関口と言いながらも、遠軽の町中にも人を流すようにしたいと考えている。
- ・将来的にはオホーツクの宿泊施設や体験プログラムの斡旋をしていくという案も出ているので、併せて検討していきたい。

④ その他

(事務局説明)

- ・8月1日付けで、地域おこし協力隊員が着任する予定であることを報告する。大阪在住の女性の方で、役場商工観光課での任用となり、配属先はえんがる町観光協会となる予定。今後は、幹事会や各専門部会にも参加してもらい、一緒に道の駅づくりを進めていきたいと考えている。

(伊達)

- ・駅長なのか役場職員なのかはわからないが、キーマンが必要。木古内の道の駅では駅長は物販のプロであるが、役場の担当が一番育った。人が物をつくっていく。活性化することが念頭であり、題材としてはいいものを持っているので、それをフルに使っていただきたい。



(座長)

- ・ 駅長の募集はなるべく早めに決めていきたい。失敗は繰り返さないことを前提として、協力してやっていきたい。

(アドバイザー)

- ・ 今回の検討協議会でコンセプトが大枠の形となった。次は誰がリーダーになって、誰が担い手となって本気で考えていくのかというのが、部会の動きになると思う。夏はゲレンデを遊ばせるのか、思い切り使って工夫して稼ぐのか、誰かがやらないといけないということを、次は具体的に進めていかなければならない。
- ・ ジップラインは道内でしっかりやっている所は大沼くらいしかなく、これをきちんとやれば相当面白い。観光案内所もどこまでやるのかで、観光協会職員が何をするのかが大きく変わってくるため、早く詰めていきたい。誰が何をやるのかを決めて、生産者や地元住民が活躍するステージを作らなければならない。
- ・ 美味しいものを出してくれる方、スキー場・アクティビティのスタッフが寄ってたかって道の駅を経営しなければならない。それを皆さんが支えて、絶対に失敗させないようにする。そうすると、人選、人の任用、誰が本気でやるのかということ、今後詰めていくことになる。

3. 閉会

(座長)

- ・ 今回は、主にロッジ・トイレ・物販・飲食についての協議をしていただいた。観光協会の案内と物販はリンクしてくるところである。今後はもっと突っ込んだ内容で、疑問点も出てくると思うが、時間がない中でも詰めていきたい。
- ・ この場だけではなく、常に幹事会や部会は動いているので、引っかかるころがあれば、すぐ伝えてもらって、助言いただければと考えている。

・ 町長挨拶

(佐々木町長)

- ・ この図面ができるまでに、北海道、開発局、警察との協議をはじめ、様々なことをクリアしながら、このようなベースができた。ここが札幌・旭川方面からのオホーツクの玄関口として、地域を発信していくための基地となる。今後もアイデアを出しながら進めていきたい。これからどのように運営していくのか、新たな声や新たな商品開発でトータル的な地域づくりの起爆剤として考えていきたい。スキー場についても、どんどん変えていく。トレーニングバーンとしては最高であり、ナショナルトレセンとしてもできないか考えている。マウンテンバイク等の夏場のアクティビティについても、リフトの補助等もあり、町として開発していきたい。これからも皆さんにどんどん考えを出してもらいながら進めていけば、良いものが必ずできると思うので、よろしく願いしたい。

(配布資料)

- 参考資料1 第6回 (仮称) 遠軽豊里IC周辺施設基本計画検討協議会 議事概要
- 参考資料2 道の駅基本設計図 (C案修正版)
- 資料1 道の駅基本設計図
- 資料2 平成27年度 道の駅別・入込客数に対するトイレ数等一覧表
- 資料3 トイレからのオホーツク発信イメージ
- 資料4 産業・食部会広報原稿